

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年11月21日
- 事業名 : 石川県加賀市市民自治化における基盤強化事業
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国コミュニティ財団協会
- 実行団体 : 公益財団法人あくるめ

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
公益財団法人あくるめが若者に奨学金を通じて応援できている	1 支援人数	1 60人	2024年3月 月末	1 0人	4
	2 支援金額	2 3,000,000円		2 0円	
加賀市の若者の課題を解決したいと思っている市民／企業／団体が増えている	1 円卓会議実施回数	1 4回	2024年3月 月末	1 0回	4
	2 円卓会議参加者数	2 のべ120人（オンライン含める）		2 0人	
	3 円卓会議参加社数	3 のべ12社以上		3 0社	
加賀市の若者の抱える課題が明らかになっている	1 報告書の配布冊（DL）数	1 2000冊	2024年3月 月末	1 0冊	4
	2 報告書説明会参加者数	2 30人（オンライン含める）		2 0人	
	3 円卓会議実施回数	3 4回		3 0回	
	4 円卓会議参加者数	4 のべ120人（オンライン含める）		4 0人	
	5 円卓会議参加社数	5 のべ12社以上		5 0社	

加賀市の企業／団体に伴走支援が行われている	1 助成額	1 2,000,000 円	2024 年 3 月末	1 0 円	4
	2 マッチング（協働）件数	2 1 件		2 0 件	
	3 伴走支援案件数	3 5 件		3 0 件	
非営利団体や企業が常に相談できる状態になっている	1 相談窓口設置日数（オープンデーやオンライン含める）	1 130 日/年	2024 年 3 月末	1 26 日	2
専門知識をもつスタッフが常勤している	1 採用人数	1 1 人	2024 年 3 月末	1 1 人	2
	2 資格合否	2 2 人		2 0 人	
既存スタッフの能力が開発されている	1 採用人数	1 1 人	2024 年 3 月末	1 1 人	2
	2 資格合否	2 2 人		2 0 人	
公益財団法人あくるめが自身の組織の課題を認識する	1 研修受講回数	1 10 回	2024 年 3 月末	1 5 回 [ 3 回(R3) 2 回(R4)]	2

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
ミーティング・ヒアリングなどは基本オンラインとし、社会情勢を見ながらオフラインで集まるほうがよりよい場合にはオフラインへの切り替えも柔軟に行なった。また、加賀市内の感染拡大状況にも合わせ、スタッフの体調への配慮を行なった。

## ③ 広報 (※任意)

- 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)
- 2.広報制作物等
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全体の進行管理／文献調査の実施／評価報告作成	山田真名美	公益財団法人あくるめ事務局／事務局長
内部	全体の進行管理／文献調査の実施／評価報告作成	小杉真澄	公益財団法人あくるめ事務局／事業担当者

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
加賀市民	1 寄付者のうち加賀市民が占める割合	1 50%以上	2024 年 3 月末	2022 年 10 月以降に寄付キャンペーンを開始するため、変化なしではあるが、キャンペーン企画プロセスの中でのヒアリングで潜在的な金銭的/非金銭的寄付者リストを作成することができている。
	2 企業サポーターのうち加賀市所在の企業が占める割合	2 50%以上		
	3 かがじょ基金による寄付金額	3 2,000,000 円		
	4 マッチングギフトによる寄付金額	4 1,000,000 円		
	5 寄付者数	5 10 人以上		
	6 企業サポーター数	6 5 社以上		

受益者	1 事業の直接的な受益者数	1 60人以上	2024年 3月末	2023年4月以降の助成となるため、変化なしではあるが、助成先として可能性のある団体へのヒアリングをおこなっている（1団体）
加賀市の非営利組織	1 相談件数	1 のべ100件 （10団体 ×5件/年）	2024年 3月末	1 相談件数はのべ16件となった。日常的に相談窓口を開設していることで、相談しようと思った時に尋ねることができること、誰に一次相談すべきか明確であることで相談件数は増えている。今年度の助成先からの相談が内12件であり、今後の事業の進め方についての相談が主である。また、内2件は過去の助成先であり活動の現状について報告・相談があった。内2件については、あくめからの支援を受けることを検討している相談内容で、実施したい内容についての相談や支援メニューについての相談があった。
自団体	1 スタッフによるファンドレイジング研修会の開催 2 伴走支援をできるスタッフ数	1 1回 2 3人	2024年 3月末	1 変化なしだが、2022年11月の試験を受験予定。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	事業実施の中でステークホルダーの広がり生まれ、関係団体・支援者などとの連携等は進んでいるか。	実施事業の中で巻き込むべき関係者と期待する役割が明らかになっている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巻き込むべき関係者については、潜在的な個人、企業の寄付者のステークホルダーの洗い出しが終わっている。また、勉強会やヒアリング調査を通じて連携を希望する団体や個人も明らかになってきた。</li> <li>・期待する役割についても、金銭的支援、非金銭的支援、アドバイザーなど期待する役割を細分化しまとめている。</li> </ul>
⑥実施を通じた活動の改善	助成プログラム立案にあたっての合意形成プロセスからどのような学びがあったか。(なぜ、助成プログラム立案まで1年半もかかったのか)	ファミリー財団からコミュニティ財団化するまでの分析・意見整理がなされ、団体内で合意形成が諮られている。	組織のコミュニケーションエラーの原因を探ることから始め、合意形成のプロセスの見直し・改善を行った。そのためそのプロセスを進めるのに1年かかった。それぞれが感じていた違和感を浮かび上がらせる作業は痛みも伴い、時間と工数を要した。特に、勉強会やヒアリングのプロセスを丁寧に団体内で共有し共通言語として設けることは非常に重要であり、そのプロセスを経たおかげでテーマの再決定はスムーズに行うことができた。
⑦組織基盤強化・環境整備	100万円をファンドレイズする計画が策定されており、実行準備ができているか。	加賀市民／企業／団体の協力が得られるようなファンドレイジング計画を策定できていて、かつ、担当者や実行時期が決まっている。	ファンドレイジング計画の策定は終了し、必要な資料の作成等の準備を進めている段階である。加賀市民の誰に対してどのような情報を提供できるか、どのようなメニューを提供できるか、共感のポイントはどこかをまとめることができている。

## ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

加賀市の高校生世代の10代の女性へのヒアリング・アンケート調査、加賀市で10代を過ぎた20代～30代の女性へのヒアリング・アンケート調査を行なった。特にヒアリング調査に力を入れ、直接会って話すことで、当事者の存在と抱える課題を明らかにすることができたため、今回のキャンペーンに共感してくれる人のペルソナが明らかになった。また、団体内でも実際の声があった事実を共有することができたため、企画を順調に進められている。

## ③ 事前評価時には想定していなかった成果

加賀市で10代を過ぎた20代～30代の女性へのヒアリング・アンケート調査を通じて、少人数ではあるがキャンペーンの共感を、キャンペーン前に集めることができたことは、想定していなかった成果である。

また、組織基盤強化～ファンドレイズ計画策定のプロセスの中で、理事も含めた組織のメンバーそれぞれ寄付を募ることに対する心理的なハードルがあったが、それぞれの恐れを明らかにし共有したこと、寄付ということが「社会参画の機会であり、寄付を依頼しないことでその機会を奪っている」という認識が変わっていったことで、寄付を募っていくことに対してポジティブな姿勢に変化したことは成果と考える。



## ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている





事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・奨学金を延期するなど、資金の配分の見直しが必要となっている。</li><li>・加賀市の若者が抱える課題を明らかにするための方法（報告書・円卓会議の実施）が適切かどうか検討する必要がある。</li></ul>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

12月に終了する「KAGA JOJOJO FUND（略称かかじょ基金）」の寄付キャンペーンの周知及び目標金額達成のための取り組み（イベントなど）を注力して行いつつ、来年度の基金で集めた資金を配分する助成先へのアプローチも今年中に行いたい。「KAGA JOJOJO FUND（略称：かがじょ基金）」の助成についても今年度中に決定したいため、その要綱作り、仕組み作りについてもアドバイスいただきながら従来のものを改善していきたい。


また、休眠預金の助成が終了する来年度以降を見据え、改めてビジョン・ミッションについて再構築し、組織体制についても現状のままではよいかどうかについて再考していきたい。

添付資料


活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

# 加賀市で暮らす 15-18歳の女性へ

## あなたのリアルな声が 地域を変えるきっかけに



匿名アンケート実施中



KAGA JOJOJO FUND


### かつて加賀市で10代を過ごしてきた 20-30代の女性たちへ

👏地域を変えるあなたの声を聞かせてください👏

私たちは、公益財団法人あくるめは加賀市をフィールドに活動する地域の財団です。現在、加賀市の10代若年女性を支援する基金の立ち上げ準備を進めています。かつて当事者であった加賀市生まれ・育ちの20-30代の女性の皆様。当時の困りごとや願いごと等、リアルな声を教えてください。

「高校生の頃、自分を出せる居場所が欲しかった」  
「辛い時、頼れる人がいなかった」  
「産婦人科に行きたかったけど、恥ずかしくて我慢した」など  
あなたの等身大のエピソードを教えてください!

アンケート



お問合せ先:公益財団法人あくるめ [info@akurume.com](mailto:info@akurume.com) ☎ 050-3174-2070



